

## 第1回 巖木川中島地区かわまちづくり協議会 議事概要

日時：令和5年11月15日（水） 17:00～18:00

場所：唐津市巖木市民センター

出席者：出席者名簿のとおり。

### 議事概要

#### 1. 協議会の目的と要綱の確認

- 事務局より資料-1 を用いて協議会の目的と要綱（案）について説明し、委員からの了承を得た。
- 要綱は令和5年11月15日施行。

#### 2. 会長・副会長の選任

- 委員の互選により、吉原松己会長、相島誠二副会長が選任された。

#### 3. 議事内容

- 事務局より資料-2 を用いて、かわまちづくりとは、中島地区の概要、これまでの経緯・検討状況等について説明した。
- 議事内容について、委員からは以下の意見をいただいた。

#### 議事内容に関する意見

意見	意見	事務局回答
①	・コミュニティセンター付近は川が狭くなっているが、かわまちづくりの整備によって大雨の時に危険になるのではないか。	・コミュニティセンター前の河原の整備については、水辺に近づけるように土砂を除去することを計画している。今よりも川の断面を小さくするようなことは考えてはいない。
②	・コミュニティセンター前の奥側（左岸側）は水の流れが早く深掘れしていて、子供と遊ぶときに非常に気を遣っている。子供が安全に利用することについて、どのように計画しているか。	・頂いたご意見については、今後、ワークショップなどで関係者で議論し計画を策定していきたいと考えている。

#### 4. 今後のスケジュール

- 事務局より資料-3 を用いて今後のスケジュールを説明し、R5 年度内に協議会やワークショップでの議論を進め計画書を作成し、R6 年度に計画書を申請することについて、委員からの了承を得た。

#### 5. その他

- 整備後のイメージ作成に必要な現地写真撮影を今後実施することを説明。

開催状況



唐津市協山副市長挨拶



吉原会長挨拶



協議会の様子



協議会の様子

協議会の開催状況

# 令和5年度 第1回 巖木川中島地区かわまちづくり協議会

日時：令和5年11月15日（水）17：00～18：30

場所：唐津市巖木市民センター

## 議事次第

1. 開会
2. 挨拶 唐津市 副市長
3. 委員紹介
4. 協議会の目的と要綱の確認 【資料-1】
5. 会長・副会長の選任
6. 挨拶「巖木川中島地区かわまちづくり協議会」会長
7. 議事 【資料-2】
  - ① かわまちづくりとは
  - ② 中島地区の概要
  - ③ これまでの経緯・検討状況
  - ④ 質疑応答
- 8.今後のスケジュール 【資料-3】
- 9.閉会

## 出席者名簿

第1回 巖木川中島地区かわまちづくり協議会

区分	所属	役職	氏名	備考
委員	中島区	区長	相島 誠二	
委員	中島区	区長代理	吉原 松己	
委員	中島区	理事	田久保 貴章	
委員	中島区	理事	中島 紀幸	
委員	中島老人会クラブ	会長	山口 恭弘	
委員	中島山笠保存会	会長	天川 俊雄	
委員	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局長	竹巖 英治	
委員	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局次長	田久保 庸介	欠席
委員	株式会社 風のふるさと館	代表取締役	千喜田 省三	
委員	巖木小学校	校長	前田 雅利	
委員	巖木中学校	校長	小浜 義博	
委員	認定こども園巖木さくらんぼ	園長	角田 美樹	
委員	きゅうらぎデザイン	代表	竹花 奈美子	欠席
委員	唐津市都市整備部	部長	岩熊 真一	(代理) 副部長兼課長 吉川 光治
委員	武雄河川事務所	技術副所長	薄田 邦貴	(代理) 流域治水課長 片淵 公淑
事務局	唐津市巖木市民センター	センター長	篠原 正彦	
事務局	唐津市巖木市民センター	総務・福祉課長	戸川 武幸	
事務局	武雄河川事務所 流域治水課	専門官	阿部 淳	
事務局	武雄河川事務所 流域治水課	流域調整係長	井上 哲博	
唐津市	唐津市都市整備部 都市計画課	課長	江頭 宏隆	
唐津市	唐津市都市整備部 都市計画課 計画景観係	係長	隅田 憲宏	
唐津市	唐津市都市整備部 道路河川管理課 管理係	係長	山崎 貴充	
唐津市	唐津市都市整備部 都市計画課 計画景観係	主査	阿蘇 友香	
唐津市	唐津市巖木市民センター	集落支援員	横道 亨	
武雄河川	武雄河川事務所 松浦川出張所	出張所長	大木 鉄夫	

# 第1回 厳木川中島地区かわまちづくり協議会

## 配席図

日時：令和5年11月15日（水）17：00～18：30

場所：厳木市民センター大会議室

中島地区 中島地区 中島地区 中島老人クラブ  
 理事 区長代理 区長 会長  
 田久保 貴章 吉原 松己 相島 誠二 山口 恭弘

株式会社 風のふるさと館  
 代表取締役  
 千喜田 省三

認定こども園厳木  
 さくらんぼ  
 園長  
 角田 美樹

きゅうらぎデザイン  
 代表  
 竹花 奈美子

厳木中学校  
 校長  
 小浜 義博

中島山笠保存会  
 会長  
 天川 俊雄

中島地区  
 理事  
 中島 紀幸

中島水辺の交流とオアシスの  
 郷づくり推進委員会  
 事務局長  
 竹巖 英治

中島水辺の交流とオアシスの  
 郷づくり推進委員会  
 事務局次長  
 田久保 庸介

厳木小学校  
 校長  
 前田 雅利

武雄河川事務所  
 流域治水課長  
 片淵 公淑

唐津市都市整備部  
 副部長兼課長  
 吉川 光治

出入口

武雄河川事務所  
 松浦川出張所  
 出張所長  
 大木 鉄矢

武雄河川事務所  
 流域治水課  
 流域調整係長  
 井上 哲博

武雄河川事務所  
 流域治水課  
 専門官  
 阿部 淳

唐津市厳木市民センター  
 センター長  
 篠原 正彦

唐津市厳木市民センター  
 総務・福祉課長  
 戸川 武幸

唐津市  
 副市長  
 脇山 行人

厳木市民センター  
 集落支援員  
 横道 亨

唐津市都市整備部  
 都市計画課  
 計画景観係長  
 隅田 憲宏

唐津市都市整備部  
 都市計画課長  
 江頭 宏隆

唐津市都市整備部  
 道路河川管理課  
 管理係長  
 山崎 貴充

唐津市都市整備部  
 都市計画課  
 計画景観係主査  
 阿蘇 友香

## 厳木川中島地区かわまちづくり協議会 要綱

## (名称)

第1条 本協議会は「厳木川中島地区かわまちづくり協議会」(以下「協議会」という)と称する。

## (目的及び設置)

第2条 協議会は、厳木川が流れる唐津市、関係団体及び地元住民と厳木川を管理する国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所が相互に連携し、厳木川(中島地区)の水辺に河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出する取組を実現するため、今後の方向性及び具体的な手法、維持管理等を検討・推進することを目的に設置する。

## (協議会の構成)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

## (会長及び副会長)

第4条 協議会には会長、副会長を置くこととし、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は協議会の運営と進行を総括し、協議会を代表する。
- 3 会長が事故等の理由により出席できない場合には、副会長もしくは会長があらかじめ指名する者が職務を代行する。

## (協議会の招集・開催)

第5条 協議会の招集・開催は事務局が行う。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

## (意見の聴取)

第6条 会長は、必要があると認めるときは、別表に掲げるもの以外に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

## (協議会の公開)

第7条 協議会資料及び議事要旨については、原則、公開する。

## (ワーキンググループの設置)

第8条 協議会の円滑な運営に資するため、ワーキンググループを設置することができる。

- 2 ワーキンググループは、事務局が必要に応じて招集・開催する。
- 3 ワーキンググループは、かわまちづくりに係る関係団体・地域住民・行政機関等の意

見を聴取し、かわまちづくりの各種調査・計画・維持管理等の検討・調整を行い、その結果について協議会に報告する。

(事務局)

第9条 協議会の事務局は、佐賀県唐津市厳木市民センター総務・福祉課及び武雄河川事務所流域治水課に置く。

(要綱の改正)

第10条 本要綱の改正は、協議会委員総数の過半数の同意をもってこれを行う。

(雑則)

第11条 本要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附則

(施行期日)

この要綱は、令和5年11月15日から施行する。

## 別表

## 厳木川中島地区かわまちづくり協議会 名簿

委員区分	氏名	所属	役職
地元住民代表	相島 誠二	中島区	区長
	吉原 松己	中島区	区長代理
	田久保 貴章	中島区	理事
	中島 紀幸	中島区	理事
地域関係団体等	山口 恭弘	中島老人クラブ	会長
	天川 俊雄	中島山笠保存会	会長
	竹巖 英治	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局長
	田久保 庸介	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局次長
	千喜田 省三	(株)風のふるさと館	代表取締役
	前田 雅利	厳木小学校	校長
	小浜 義博	厳木中学校	校長
	角田 美樹	認定こども園厳木さくらんぼ	園長
	竹花 奈美子	きゅうらぎデザイン	代表
	行政団体	岩熊 真一	唐津市都市整備部
薄田 邦貴		国土交通省・九州地方整備局 武雄河川事務所	技術副所長



# 第1回

## 巖木川中島地区 かわまちづくり協議会

令和5年11月15日

佐賀県唐津市  
九州地方整備局武雄河川事務所

# 1. かわまちづくりの概要

## ①かわまちづくりとは

- 「かわまちづくり」は、**河川空間（かわ）**と**まち空間（まち）**が一体となって、良好な空間を作る取り組みの事です。
- 「**巖木川中島地区かわまちづくり**」の場合は、「**かわ**」は**巖木川**、「**まち**」は**中島地区**となります。
- 地域の「**景観・歴史・文化・観光**」などの「**資源**」と地域の「**知恵**」を活かす取り組みです。
- **中島地区の住民の方々や関係団体、唐津市、国土交通省（武雄河川事務所）**が連携してかわまちづくりを行い、良好な空間を作る取り組みを進めるものです。



## ②かわまちづくりで実現できること

- 階段、通路などの施設の整備（**ハード施策**）
- 整備施設を活用したイベントの実施や利便性の向上（**ソフト施策**）
- 地域の活性化（**新たな交流の増加**など）
- 地域の**ブランドの向上**（**新たな価値の創造**による認知後の向上など）

## ③かわまちづくりで得られるもの

- **新たな可能性（地域資源）の発見・発掘**
- 地域住民・団体などの**ネットワークづくり**
- 地域の**将来像の共有**
- **資金の確保**（**重要な施策としての位置づけ**）
- **地域の課題解決**

かわまちづくりのイメージ図



環境学習・自然体験

ウォーキング・ジョギング

キャンプ・バーベキュー



オープンカフェ

マルシェ・朝市・夜市

カヌー・SUP

# 1. かわまちづくりの概要

## ④「かわまちづくり」支援制度とは

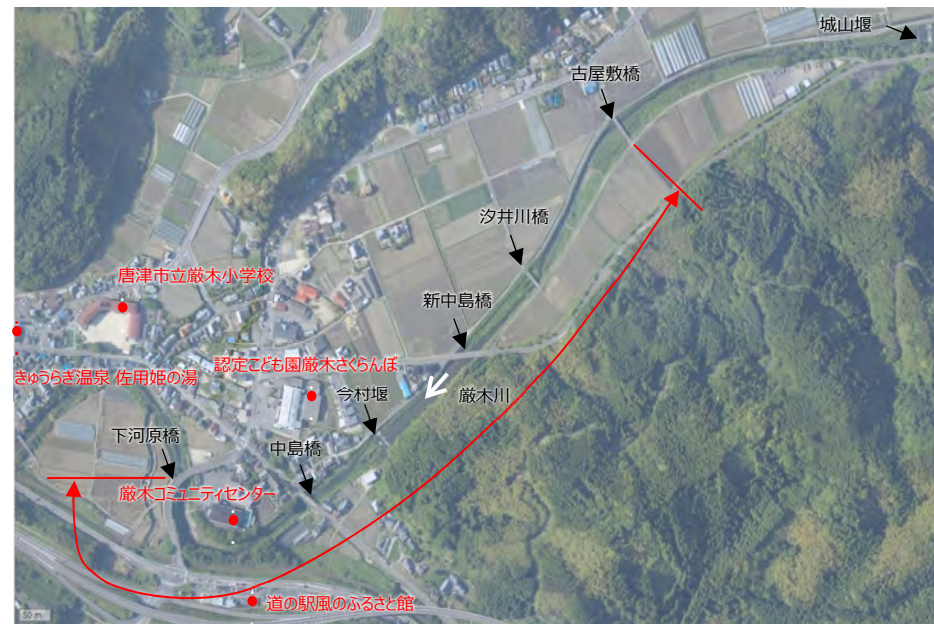
- 国土交通省が定める制度で、地域の「かわまちづくり」の取り組みを河川管理者が支援する制度です。
- 厳木川中島地区でもこの制度に基づく「かわまちづくり計画」の登録を目指します。
- 市町村、民間事業者、地元住民、関係団体、河川管理者が連携し、「かわまちづくり計画」を作成します。
- 河川管理者は支援制度に登録された計画に基づいて、必要なソフト・ハード施策の支援を行います。

## ⑤「かわまちづくり」支援制度の登録に必要なもの

- かわまちづくり計画：本協議会で承認されたもの
- 推進主体：唐津市
- 河川管理者との協力関係：中島地区・関係団体・唐津市・国土交通省の極力関係が必須
- 推進主体の熱意：計画の内容のほか、地域の熱意の高さも登録の判断材料

## ⑥厳木川中島地区のかわまちづくり対象範囲

- 厳木川の下河原橋（厳木コミュニティセンター付近）～古屋敷橋の間を対象とします。
- 厳木川だけでなく、河川周辺の中島地区の住民や関係団体、各施設などと一緒にかわまちづくりの検討を進めます。



航空写真:国土地理院

厳木川中島地区かわまちづくりの対象範囲

# 1. かわまちづくりの概要

## 【事例】 唐津市：松浦川河口部

### 【整備前】

通路が無く水辺に近づきにくい。



### 【整備後の利用状況】

川沿いに通路が整備され、散歩や川沿いでの休息などに利用。



## 【事例】 伊万里市：松浦川駒鳴

### 【整備前】

通路が無く水辺に近づきにくい。



### 【整備後の利用状況】

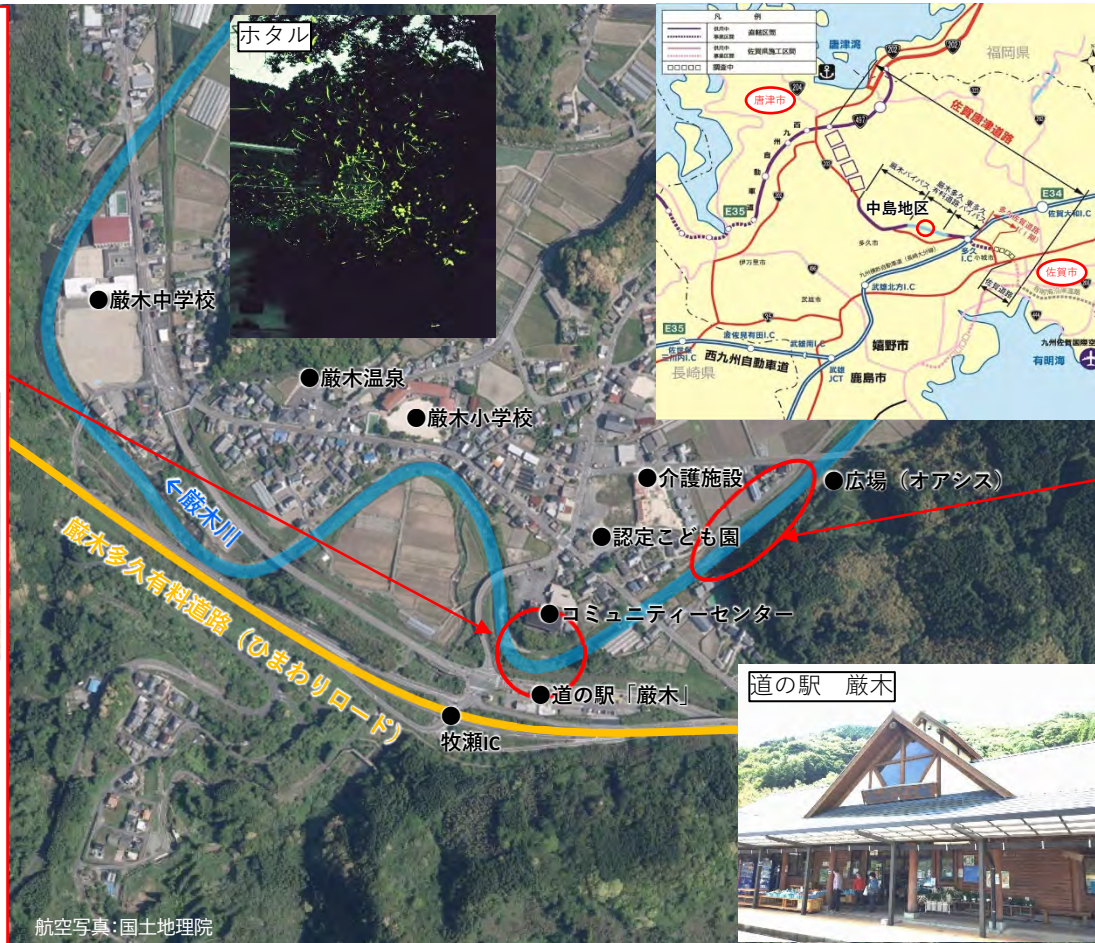
河川沿いに通路が整備され、水辺に近づきやすくなったことで、カヌーなどの利用が可能となった。



## 2. 巖木川中島地区の概要

- 巖木川の中島地区は、瀬・淵で形成された砂礫河原の良好な河川環境を呈しており、地元の小学生やこども園の園児による川遊び、水生生物調査などの環境学習の場として利用されている。
- 夏季にはゲンジボタルが飛翔し、ホタル観賞の場として地域の方々から親しまれている。
- 地元主催のイベントの場としても利用されており、広場（オアシス）の管理、イベント前の河川清掃、外来水草撤去作業、河川のヨシ切りやヨシ焼き、草刈りなどを地元が一体となり維持管理を実施している。
- また、佐賀市と唐津市を結ぶ巖木多久有料道路（ひまわりロード）が整備されているとともに、周辺には、温泉施設、道の駅が近接し、巖木川の自然や周辺の観光資源を活用した川づくり・まちづくりが期待される。

地元の子供の水遊びや水生生物調査などの環境学習の場として利用。



航空写真: 国土地理院



地元のイベントの場として利用され、そのための維持管理（水草撤去等）を主体的に実施。



### 3. 巖木川中島地区の課題

● 地元のイベントや川遊びに利用されるとともに、観光資源として期待されるものの、施設の老朽化、樹木の繁茂、水辺へのアクセス制限や近づきにくいなどの課題を有している。

#### トイレ（水場）の老朽化

周辺でキャンプ等を行う場合、使用しづらい。



#### 水辺へのアクセス

コミュニティセンター周辺の水辺へのアクセス路はこの階段護岸のみ。



#### 水辺の散歩

今村堰上流側の水辺の散歩路がなく連続性がない。



#### 河道内への土砂堆積

ヨシ焼きやヨシ切りによる維持管理が継続的に必要であるが、堆積が進み水際に近づきづらい。



#### 水辺へのアクセス

どんど焼き等のイベント時に利用されているものの河道内への階段が少ない。



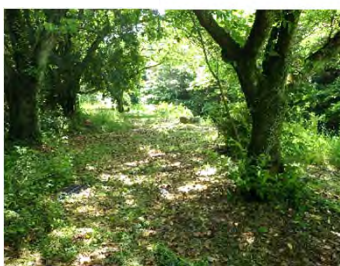
#### 水辺へのアクセス

川リンピック等で利用されているもののアクセスしにくい。



#### 堤防天端の利活用

雑草が生い茂り、樹木によりうっそうとしている。

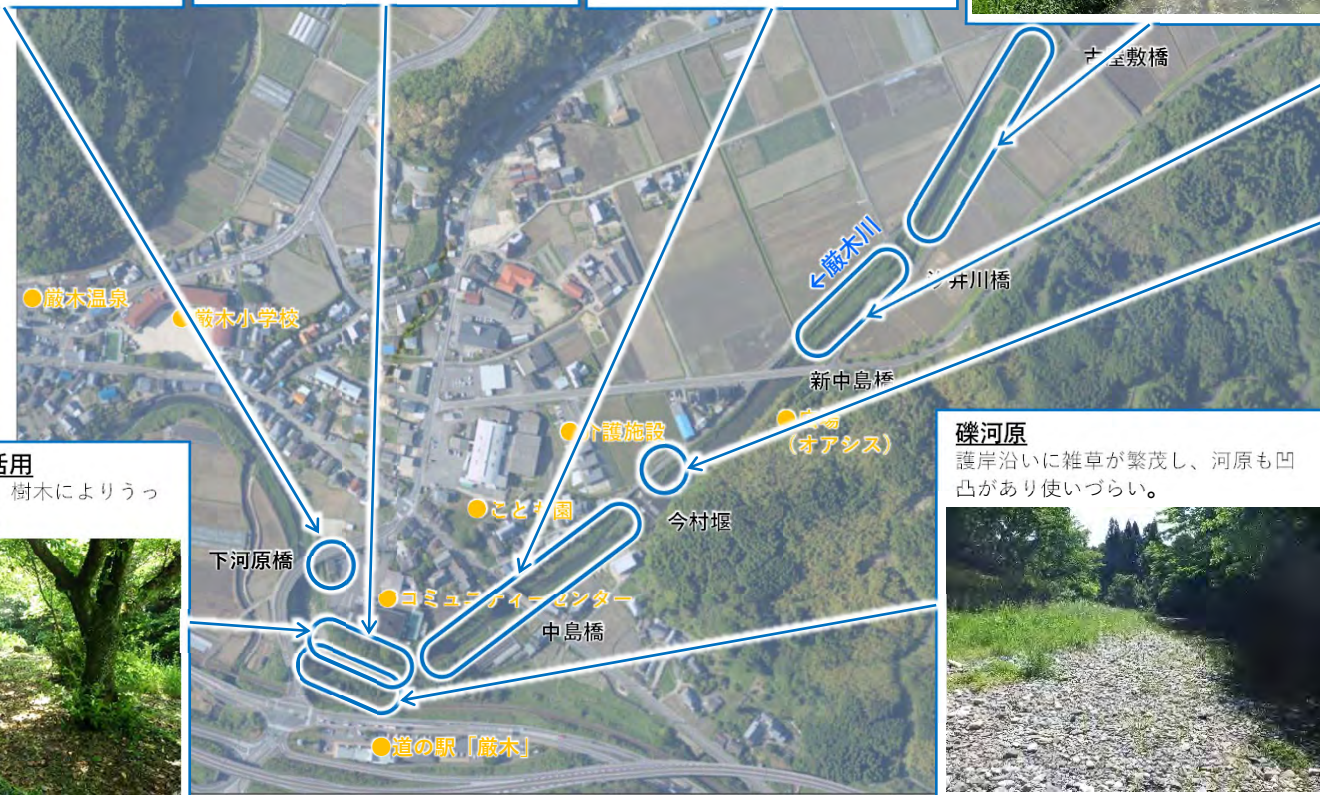


#### 礫河原

護岸沿いに雑草が繁茂し、河原も凹凸があり使いづらい。



航空写真：国土地理院



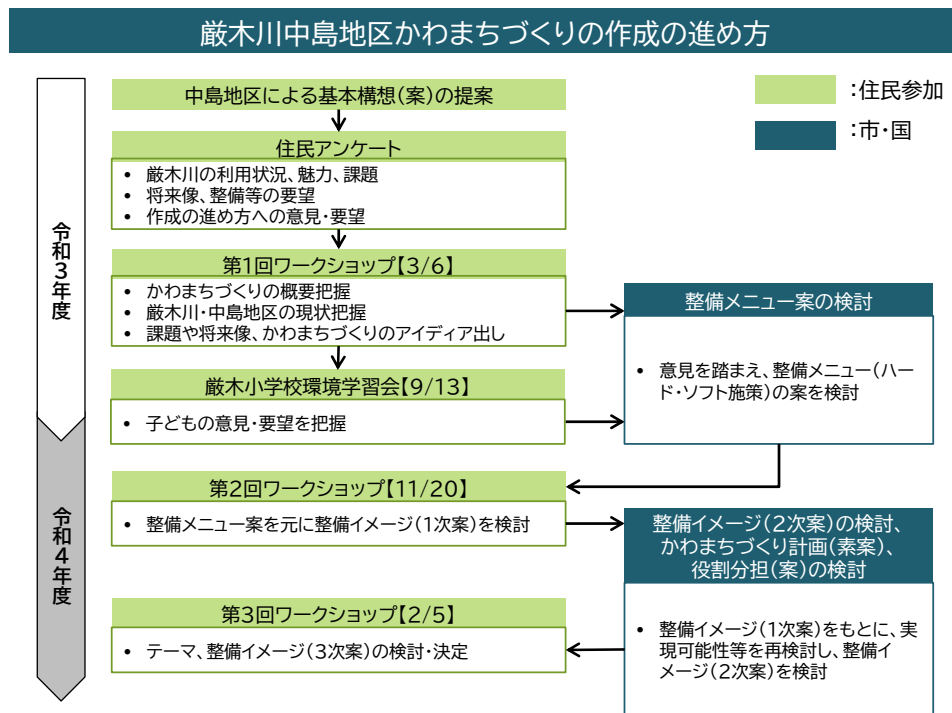
# 4. これまでの経緯・検討状況

## ■ これまでの経緯

- 令和3年度から、住民アンケートやワークショップ、環境学習会を通して、地域住民や小学生の意見を聴取し、かわまちづくりの計画づくりを進めてきた。
- これまで、階段や散策路などのハード施設の整備イメージや利活用を中心に意見交換を行い、かわまちづくりのイメージ案のとりまとめを行った。



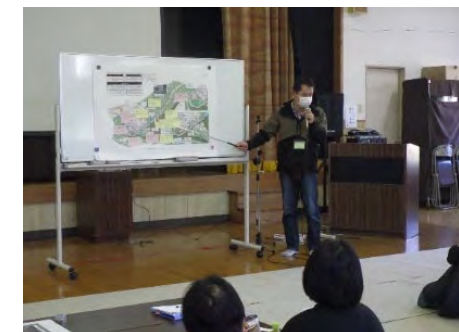
第1回ワークショップ（厳木川の現地視察とディスカッション）



厳木小学校環境学習会（4年生対象の総合学習の一環）



第2回ワークショップ



第3回ワークショップ

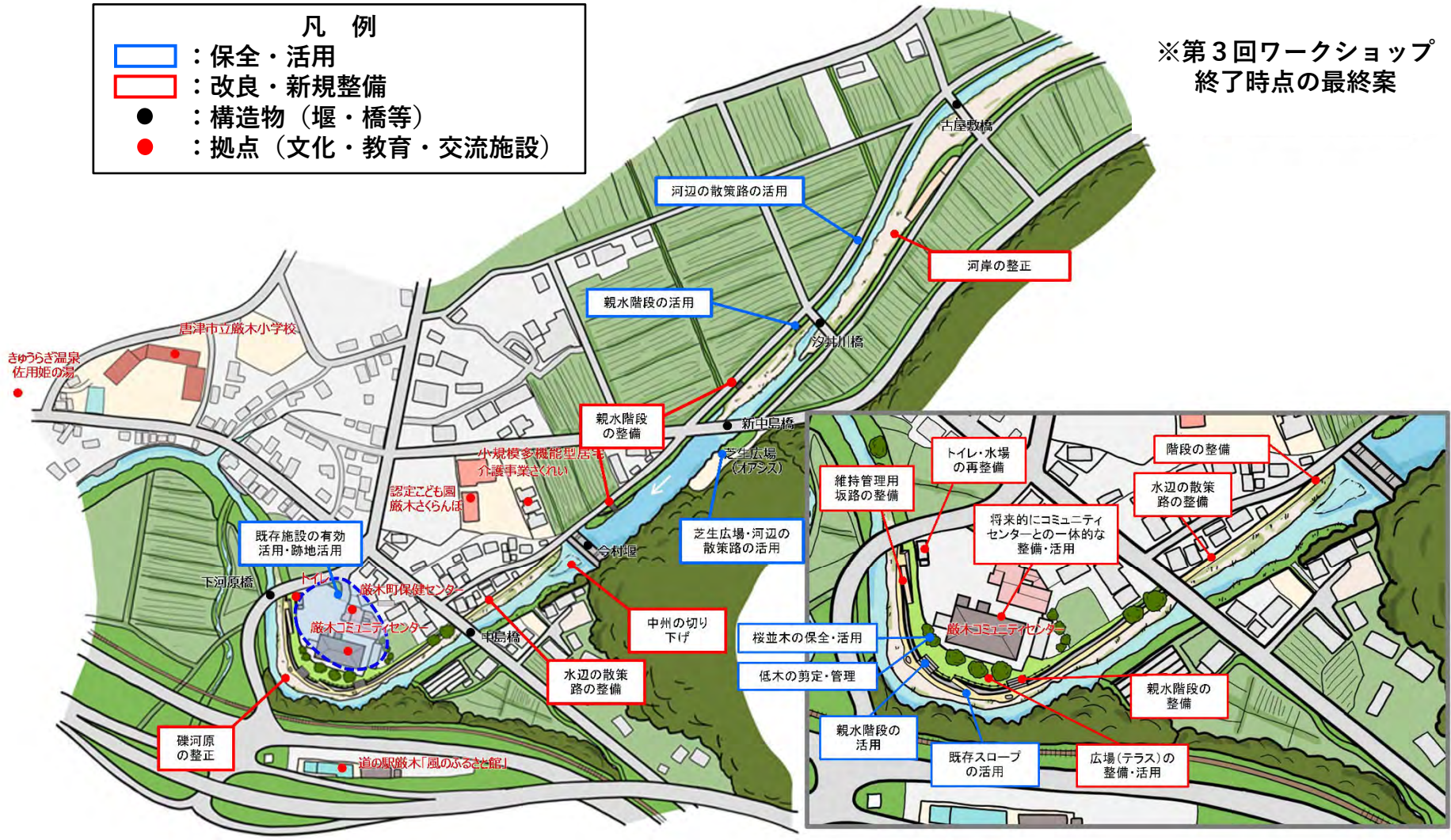
# 5. ハード施策の整備メニュー（案）

- コミュニティセンター周辺では、広場（テラス）を整備し、礪河原の整正や親水階段・坂路整備を行う。
- コミュニティセンターから古屋敷橋間では、水辺の散策路、親水階段、河岸整正を行う。

凡 例

- : 保全・活用
- : 改良・新規整備
- : 構造物（堰・橋等）
- : 拠点（文化・教育・交流施設）

※第3回ワークショップ  
終了時点の最終案





## 6. 整備メニュー（案）と利活用①（コミュニティセンター周辺）

- コミュニティセンター前では、礫河原を整正し散策路を整備することで川遊びや環境学習に活用しやすい場となる他、広場（テラス）・トイレ（水場）を整備することで、地域の方々がイベントや休憩、ホテル観賞などで活用していただくことが期待される。
- イベントや美化活動を通じ地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、広場を活用したマルシェやキャンプ等の活用も想定される。

### ■ 現況写真



#### 【トイレ（水場）の整備】

- 水場としての活用も可能なトイレの整備
- 地域でのイベント、休憩等での活用
- トイレ（水場）があることで将来的な広場活用（BBQ、キャンプ等）にもつながる。

#### 【広場（テラス）の整備】

- 護岸の積み増しによる広場面積の拡大
- 既存樹木の間引き（中低木の伐採）、安全柵やベンチの設置、芝張り（または舗装）による広場整備
- 地域でのイベント、休憩、花見、ホテル観賞等での活用
- 将来的にBBQ、キャンプ、マルシェ等、人を呼び込む場としての活用も可能



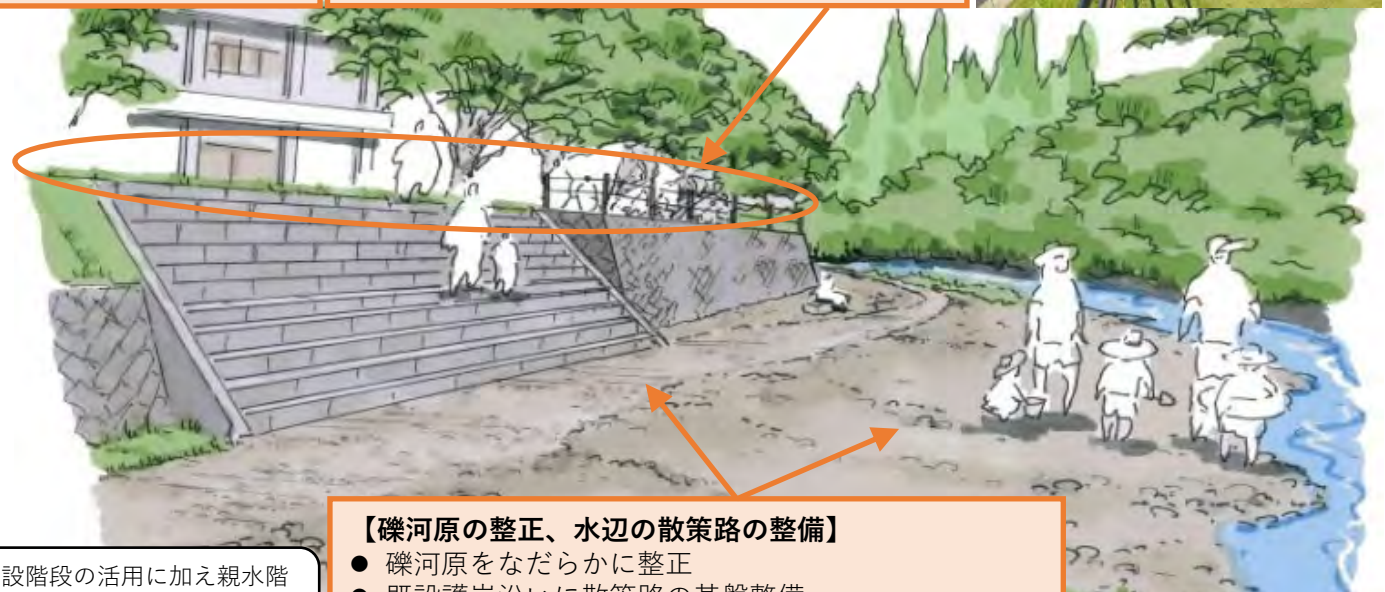
テラスのイメージ  
（白川：熊本市）



護岸上部は鬱蒼として見通しが悪い。



水際に落差があり近づきにくい。



#### 【礫河原の整正、水辺の散策路の整備】

- 礫河原をなだらかに整正
- 既設護岸沿いに散策路の基盤整備
- 地域での散策、川遊び、ホテル観賞、また環境学習の場として、より安全・安心に活用できる場となる。

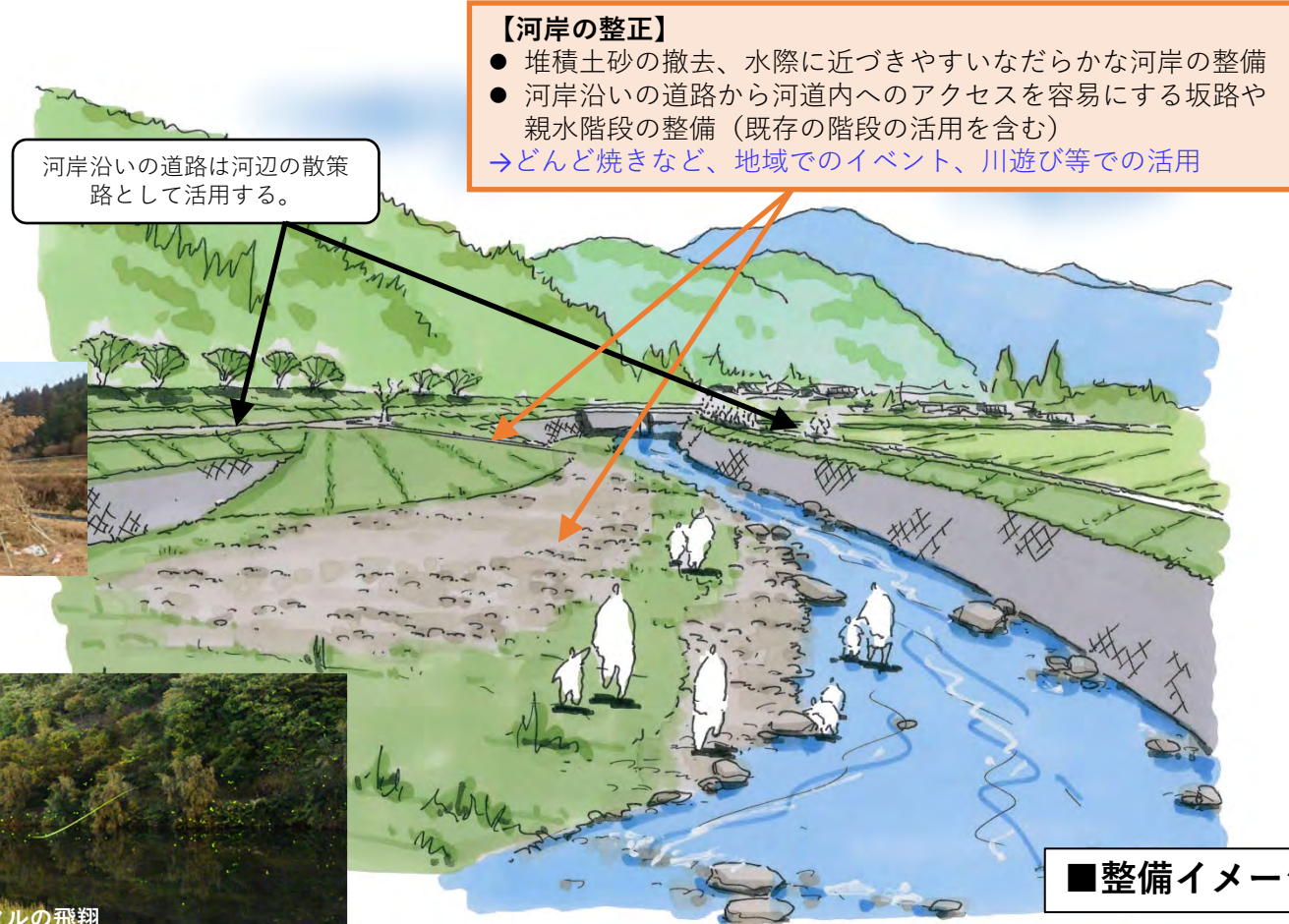
既設階段の活用に加え親水階段を整備し、水辺へのアクセス、利便性を向上させる

### ■ 整備イメージ

## 7. 整備メニュー（案）と利活用②（古屋敷橋下流）

- 古屋敷橋から下流の河道では、河岸の堆積土砂を整理し、坂路や親水階段を整備することで河道内や水際へのアクセスを容易とする。川リンピックやどんど焼きなどの地域のイベントや普段の川遊びでの活用が期待される。
- これまでどおり、河岸沿いの道路は、普段の散策やホタル観賞等に活用していただく。
- イベントや美化活動を通じ地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、水辺などを活用したイベントによる地域興しへの発展も期待される。

### ■ 現況写真



## 8. 整備メニュー（案）に対する利活用の方法と必要なソフト施策（案）

- 前述の整備メニューと利活用（案）に対し、唐津市や国土交通省によるソフト施策の実施によって、地域の更なる利活用や活性化につなげる。

### 整備メニュー

#### ①広場（テラス）の整備

- 護岸の積み増しによる広場面積の拡大
- 既存樹木の間引き（中低木の伐採）、安全柵やベンチの設置、芝張りなどによる広場整備

#### ②トイレの再整備

- 水場としての活用も可能なトイレの再整備

#### ③礫河原の整正

#### ④散策路の整備

#### ⑤親水階段の整備

- 礫河原をなだらかに整正
- 既設護岸沿いに散策路の基盤整備
- 水辺へのアクセスを容易にするための親水階段を整備

### 具体的な利活用方法

地元でのイベント、休憩、花見、ホテル観賞等、厳木川を親しめる空間へトイレの再整備と併せてBBQ、キャンプ、マルシェ等の人を呼び込む場としての活用も可能



テラスのイメージ  
(白川：熊本市)

地域での散策、川遊び、ホテル観賞、環境学習、情操教育の場として、より安全・安心に活用できる場とする。



環境学習・川リンピックでの利用

### 必要なソフトメニュー

- 広場（テラス）でのイベント支援（市報やSNS等での広報、費用助成）
- 清掃時の道具貸出し・保険加入
- 道の駅と連携したフォトコンテストへの審査員派遣
- 道の駅へのかまちづくり整備箇所案内板またはチラシの掲示
- ウォーキング・サイクリング・ツーリングコース設定（マップの配布、広報）
- かまちづくり推進委員会等による合意形成支援（かまちづくり協議会を整備後に推進協議会（仮称）に移行）
- 水生生物調査の実施（厳木小学校の総合学習とのタイアップ）など

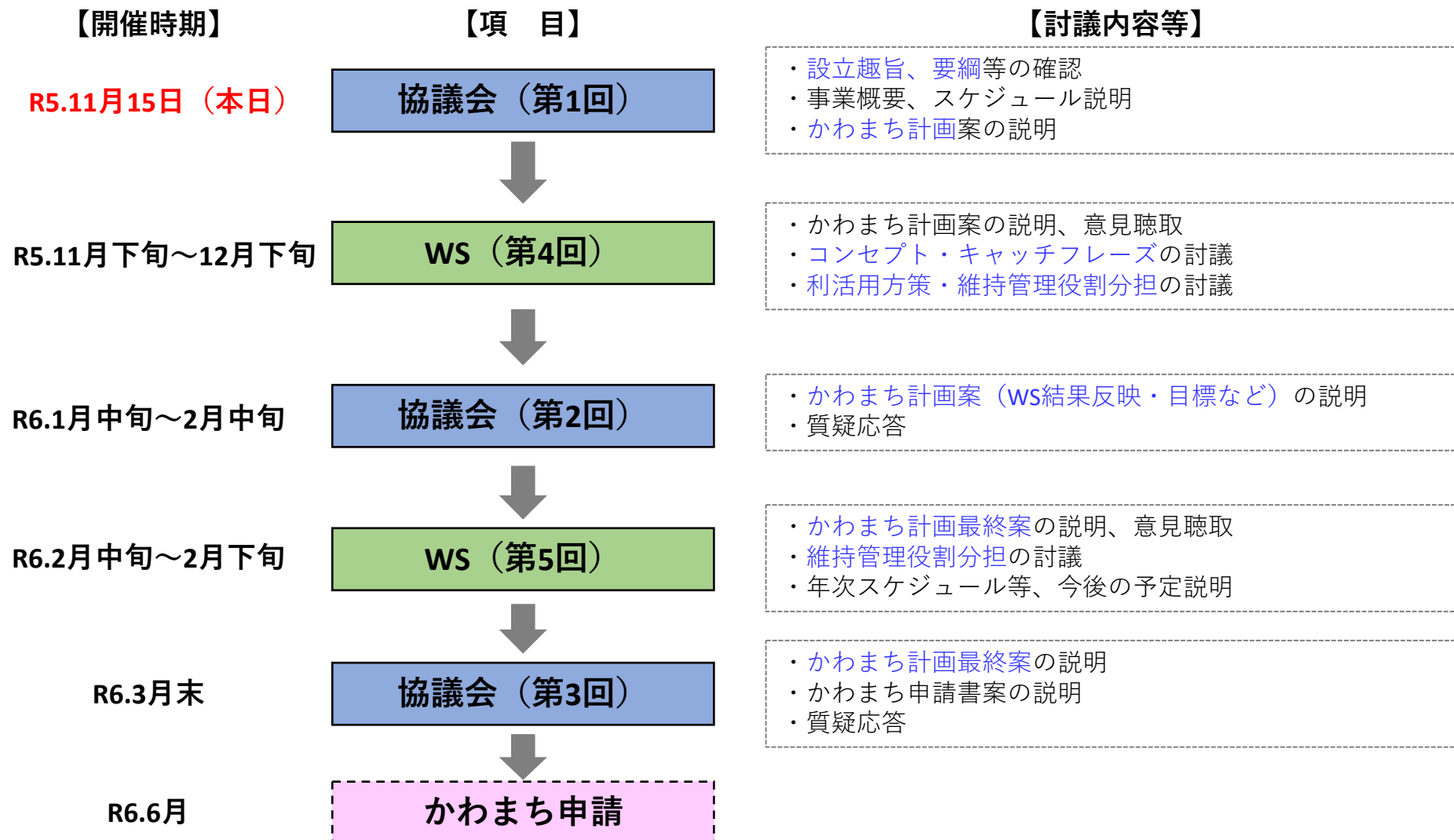


フットバスガイドマップ  
(最上川ビューポイントコース)

ウォーキングコースのイメージ（最上川：長井市）

# 今後のスケジュール（案）

- R5年度は2回のWSでかわまち計画最終案を議論し利活用方策・役割分担を調整する。また協議会を立ち上げ、計3回の協議会で計画の最終案とかわまち申請書を確定させ、R6年のかわまち申請を目指す。



令和4年  
3月

# 巖木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース

1号

巖木川中島地区では、かわまちづくり支援制度を活用し「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指すため、みなさまと一緒にかわまちづくり計画をつくっていきます。この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は記念すべき第1号です！

## 第1回「巖木川中島地区への想い」

日時：令和4年3月6日（日）

13：30～16：00

場所：中島集会所及び現地

参加者：30名

### プログラム

- 13：30 開会
- 13：35 かわまちづくりについて
- 13：45 フィールドワーク
- 15：00 グループワーク
- 15：40 発表
- 16：00 閉会

### かわまちづくりについて

「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。

かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。

かわまちづくりには支援制度があり、巖木川中島地区ではこの制度に基づく「かわまちづくり計画」の登録を目指しています。

### フィールドワーク

実際にみなさんと一緒に現場を見て回るフィールドワークを実施しました。歩きながら、利用面や安全面の課題、周辺の魅力、こうなったらいいなと思うことなどを考えたり、話し合ったりしていただきました。

### グループワーク

フィールドワークを受けて、グループワークでは巖木川中島地区の現状と課題、将来像について意見をいただきました。



本ワークショップは、検温の実施・マスクの着用・手指消毒をはじめとする各種消毒・密にならない・十分な換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催しております。

# グループごとの意見交換・発表



こんなにたくさん意見の出る班も



ワークショップの中で出た意見の一部をご紹介します！

	現地をみて気づいたこと	こんな川になってほしい！
1班	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の中に土砂がたまりすぎている。</li> <li>オオカナダモがなくなっている。</li> <li>ガードレールがないのが良い。</li> <li>オアシス下流の護岸整備が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の中を歩けるような散策路を作りたい。</li> <li>たまった土砂にさらに土を盛って川に入りやすくしたい。(平場も残す。)</li> <li>トイレマップを作って他地域の人が利用しやすい環境を作りたい。</li> </ul>
2班	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の中に堆積した土砂をどうするか。(とるか活用するか)</li> <li>コミュニティセンター跡地はどうするか？周りに草木が生い茂っているのも気になる。</li> <li>隣の地区に住んでいるが、この川の良さを知らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩くのが楽しいまちづくりがしたい。</li> <li>雇用がうめるようなまちづくりを目指したい。</li> <li>コミュニティセンター跡地にキャンプ場を作りたい。</li> <li>散策路をつなげて、エリアごとに川に入りやすい階段やスロープを設けたい。</li> <li>地域の取り組みを伝えたい。</li> </ul>
3班	<ul style="list-style-type: none"> <li>古屋敷橋の下は河原が広くて何かに使えそう！</li> <li>上流側は川に下りづらい。</li> <li>夏場はヨシが茂って景観が悪い。</li> <li>昔は川底が砂で裸足で歩けた。今は石が多くて危ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティセンターから川沿いを歩けるホタルロードを繋げたい。</li> <li>子どもが安心して遊べる川(水遊びができる場所などを示したマップの設置)</li> <li>古屋敷橋の下はグランドゴルフ場などに活用</li> <li>インスタ映えスポットを作りたい。</li> </ul>

## 今後のスケジュール

R6年度登録に向けて、地域のみならずと計画検討を進めていきます。

第2回ワークショップは、令和4年度を予定しています。



問い合わせ先：厳木川中島地区かわまちづくり協議会 代表 吉原松己  
及び厳木市民センター (TEL：53-7110、FAX：63-3120)



# 巖木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース

# 2号

巖木川中島地区では、かわまちづくり支援制度を活用し「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指すため、みなさまと一緒にかわまちづくり計画をつくっていきます。この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第2号です！

## 第2回 「整備イメージをつくりあげよう」

### 実施概要

これまでの振り返りと整備イメージ1次案を踏まえ、グループワークでは、具体的な整備内容や活用・維持管理のイメージについて意見をいただきました。

日時：令和4年11月20日（日）

13：30～15：50

場所：中島集会所

参加者：33名

### プログラム

13：30 開会

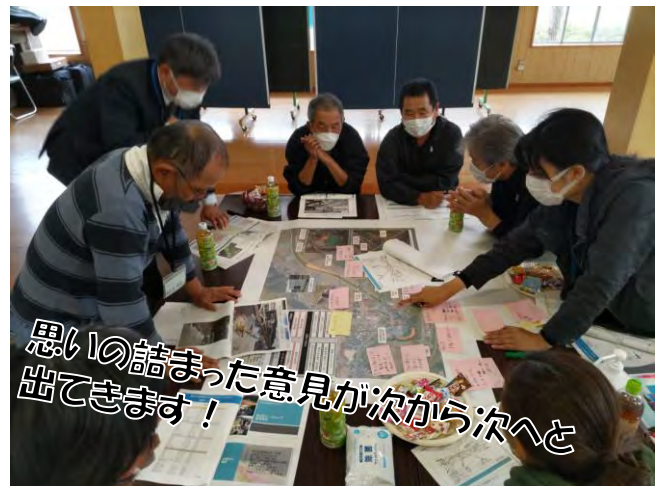
13：35 全体説明

- ・かわまちづくりとは
- ・第1回ワークショップの振り返り
- ・巖木小学校環境学習会の実施報告
- ・整備イメージ1次案

14：10 グループワーク

14：55 発表

15：50 閉会



### かわまちづくりとは

「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。

かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。

かわまちづくりには支援制度があり、巖木川中島地区ではこの制度に基づく「かわまちづくり計画」の登録を目指しています。

本ワークショップは、検温の実施・マスクの着用・手指消毒をはじめとする各種消毒・密にならない・十分な換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催しております。

# グループごとの意見発表と整備イメージ案のとりまとめ



各班の意見を振り返りながら、整備イメージを作り上げていきます

1班～4班の発表内容を踏まえて、全体で意見交換をしながら作り上げた整備イメージ（案）の一部をご紹介します！

子どもたちが親と一緒に安全に遊べるように整備してほしい。

地域住民に向けたものなのか、地域外からの集客を目指すものなのか、議論が必要

水辺の散策路は壊れにくく、ベビーカーや車いすでも利用できるようにつくりが良いな

子どもや高齢者でも安全に降りられるよう階段を改良、またはスロープがあるといいな

散策路は上流までつながると良いな

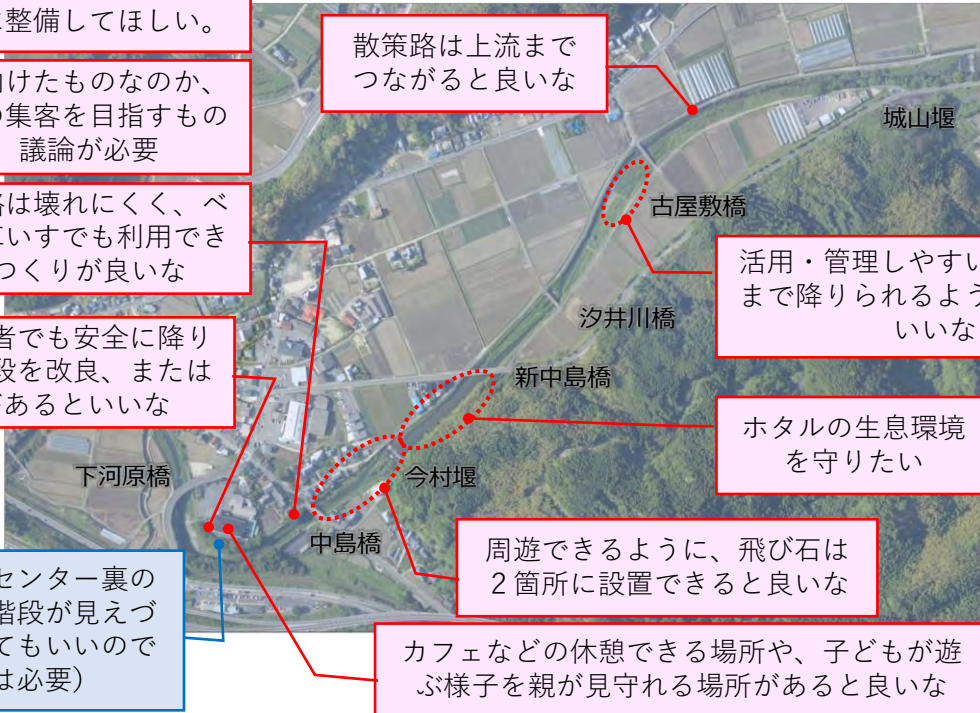
活用・管理しやすいように、川まで降りられるようになったらいいな

ホタルの生息環境を守りたい

コミュニティセンター裏の低木は、暗く階段が見えづらいのでもいいのでは（木陰は必要）

周遊できるように、飛び石は2箇所を設置できると良いな

カフェなどの休憩できる場所や、子どもが遊ぶ様子を親が見守れる場所があると良いな



あると良いものに関する意見    なくて良いものに関する意見

## 今後のスケジュール

R6年度登録に向けて、地域のみなさまと計画検討を進めていきます。  
第3回ワークショップは、令和5年を予定しています。

## 厳木小学校環境学習会の報告

令和4年9月12日に、厳木小学校の4年生と環境学習会を開催しました。魚捕りや水質調査を体験し、厳木川を歩いて、厳木川でやってみたいことや、もっとこうなったら良いと思うことをアンケートで答えてもらいました。かわまちづくりの計画に反映していきます。



問い合わせ先：厳木川中島地区かわまちづくり協議会 代表 吉原松己  
及び厳木市民センター（TEL：53-7110、FAX：63-3120）





# 巖木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース

# 3号

巖木川中島地区では、かわまちづくり支援制度を活用し「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指すため、みなさまと一緒にかわまちづくり計画をつくっていきます。この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第3号です！

## 第3回 「整備イメージを仕上げて、テーマを掲げる」

### 実施概要

これまでの振り返りと整備イメージ2次案を踏まえ、グループワークでは、整備イメージ案の仕上げを行い、かわまちづくりのテーマについて意見をいただきました。

日時：令和5年2月5日（日）

13：30～15：45

場所：中島集会所

参加者：30名

### プログラム

- 13：30 開会
- 13：35 全体説明
  - ・これまでの経緯
  - ・第2回ワークショップの振り返り
  - ・整備イメージ2次案
- 14：05 グループワーク
  - ・整備イメージを仕上げる
  - ・テーマを掲げる
- 15：05 発表
- 15：45 閉会

### かわまちづくりとは

「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。

かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。

かわまちづくりには支援制度があり、巖木川中島地区ではこの制度に基づく「かわまちづくり計画」の登録を目指しています。



本ワークショップは、検温の実施・マスクの着用・手指消毒をはじめとする各種消毒・密にならない・十分な換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催しております。

# 整備イメージ案のといまとめとテーマの案出し

各班で仕上げた整備イメージ案とテーマについて発表していただきました！

各班の意見を振り返りながら、整備イメージを仕上げていきます



作り上げた整備イメージ（案）とテーマの一部をご紹介します！

堰の水の中に入りやすいように階段を整備したい。川流れやボート・SUPを浮かべて水遊びをしたい。

古屋敷橋下流の河原は地元が利用し、コミセン前は訪問者が利用するなど使い分けをしてはどうか

散策路を整備する際には、近隣住民への配慮が必要で、意見を聞かないといけない

どんど焼きで利用するので階段を整備したい

散策路以外（河川敷）も歩けるようにしたい

BBQ、キャンプ、休憩スペースとして利用したい



コミセン前の川では、子どもが安全に水遊びできるようにしたい

## テーマ案

- ・ そうだ！ 厳木川へ行こう！
- ・ 清流と自然に癒される厳木
- ・ 川と生きる川が活きる街厳木
- ・ 過去と未来を厳木川でつなぐふれ合いプロジェクト！
- ・ ほたるが集まるみんなも集まるふるさとの川厳木川 など

## 今後のスケジュール

かわまちづくり登録に向けて、地域のみなさまと計画検討を進めていきます。

第4回ワークショップは、令和5年を予定しています。



問い合わせ先：厳木市民センター（TEL：53-7110、FAX：63-3120）

# 現地状況（コミュニティセンター周辺～中島橋）

## 礫河原

コミュニティセンター前の河川沿いには大きな礫河原が存在。



## 階段護岸及び護岸天端の状況

階段護岸があるが、護岸天端では草木が生えうっそうとしている。



## 堤防天端

広場として十分利用可能なスペースが存在。



## 河川及び水際へのアクセスが難しい。

コミュニティセンターから上流側は、アクセス困難。



水辺へのアクセス路が不足している。

# 現地状況（中島橋～新中島橋）

## 既設の階段護岸

中島橋上流側の砂州へと降りる既設の階段護岸が存在。



## 既設の階段護岸

河川沿いに2箇所河川へのアクセス路が存在。



## 今村堰湛水域

川リンピックで利用されているが、アクセスが困難（斜面）。



## 広場（オアシス）の活用

広場が整備されているが、水際へのアクセスが困難。



## 現地状況（新中島橋～古屋敷橋）

### 砂州（土砂の堆積）

どんど焼き等のイベント会場として活用（アクセスは不便）。



### 砂州（土砂の堆積）

土砂が堆積し、水際へのアクセスが困難になっている。

